

地方創生 XSDGs

キーワード: SDGs推進課題の解決、SDGs de 地方創生カードゲーム、2030SDGsカードゲーム

○活動に取り組んだきっかけ・背景

法学部望月ゼミでは、私たちが暮らす地域が抱える課題について調査・分析し、総合的な視点に立った政策の立案に取り組んでいます。人口減少や少子高齢化などが進展する現在、多くの地方自治体や企業がSDGsの取組みを進めています。このため望月ゼミでは、毎年3年生を対象にSDGsをテーマに取り組んでいます。

○活動の目的

学生がSDGsのカードゲームの体験を通して「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、「SDGsがあることによってどんな変化や可能性があるのか」を理解し、「2030年までに目標を達成するには、どうしたらよいか」を考え、さらにSDGs推進のため地方自治体が抱えている課題の解決策を検討し発表することなどを目指しています。

○具体的な内容

2020年度は、「静岡市のSDGs推進」の課題解決策の提案に取り組みました。静岡市の「SDGsという言葉を知り、理解する」からどのように行動に繋げていくか、「静岡市SDGs宣言事業や情報発信を通じて、中小企業のビジネスチャンスをつどのように創出するか」の課題について、学生の視点から検討を行い、行政担当者にプレゼンテーションを行いました。

2021年度は、SDGsの考え方を地域の活性化に活かし地方創生を実現する方法について、カードゲームを通し考える「SDGs de 地方創生カードゲーム」を体験しました。行政担当者、一次産業従事者、まち工場の経営者などの役割をもつチームごとにプロジェクトを進めます。学生は、SDGsの考えが地方創生に役立てられること、地域の地方創生を実現するには一人ひとりが自ら周りに働きかける積極性や協力、連携、情報発信が大切であることを実感しました。

2022年度は、SDGsの17の目標を達成する現在から2030年までの道のりを「2030SDGsカードゲーム」で体験しました。ゲームの前半は、世界の状況メーターのうち経済だけが伸び、環境と社会は後退してしまいます。後半は、周りの学生と協力し環境と社会のバロメーターを意識しながらプロジェクトを進めることで、世界の状況メーターは改善し、全員の目標も達成することができました。学生は「SDGsの目標を達成するには、自分一人だけでなく周囲とのコミュニケーションを取ること、協力・パートナーシップの意識を持つことが大切である」ことを学びました。

○期待される効果など

活動を通して学生自身が「エコバックの利用、フードロス、公共交通機関の利用、衣服のリサイクル、節水・節電、ボランティア活動やコミュニティ活動への参加」などSDGsの目標達成のための具体的な活動をイメージすることができました。また、2030年までにSDGsの目標を達成するには、日本の達成状況や企業の貢献度、様々な団体の活動などを誰にも届くように「見える化」し、全体のコミュニケーションや協力・パートナーシップの意識を深めることが重要ということが理解できました。



2020年度の成果発表



2021年度のカードゲーム



2022年度のカードゲーム

教員名 望月 久

所属学部・学科 法学部 法律学科

職位 特任教授

連携先